



↑最新の取扱説明書

このたびはマウントアダプターをお求めいただき、まことにありがとうございます。本製品を安全にお取り扱い頂くため、ご使用前に取扱説明書をよくお読みになりご使用ください。また、この説明書はお読みになった後、いつでもご覧になれるよう大切に保管して下さい。

## LM-NZ M E

本製品は、ライカMマウントレンズをニコンZマウントのカメラで使用するための電子接点付きマウント変換アダプターです。繰り出し量6mmのヘリコイドを搭載し、レンズの最短撮影距離を短縮。被写体に寄った撮影が可能になります。電子接点により、焦点距離や開放F値などのレンズ情報をカメラへ伝達し、EXIF記録およびフォーカスイド機能に対応します (AFおよび自動絞り制御非対応)。

### [各部の名称]



### 【特徴】

- 繰り出し量6mmのヘリコイドを装備し、レンズの最短撮影距離を短縮
- 繰り出し操作を快適にするフォーカスレバー搭載。無限遠位置にクリック感を設けることで、意図せぬヘリコイドの繰り出しを防止
- カメラのフォーカスイド機能に対応し、MF時のピント合わせをサポート
- レンズ情報の伝達により、カメラボディ内手ブレ補正機構に対応
- 初期登録されたレンズ情報（レンズ名/焦点距離/開放F値）10種を、EXIFとして記録可能
- 内蔵のレンズ情報（レンズ名/焦点距離/開放F値）をPCで編集可能
- 付属のUSBケーブルでPCと接続し、ファームウェアアップデートが可能

### 【撮影方法】

1. 本製品（アダプター）にレンズを装着してカメラに取り付け、電源をONにします。
2. カメラの撮影モードはA（絞り優先）またはM（マニュアル）に設定し、フォーカスモードをMFモードに設定してください。
3. 下記【レンズ情報の切替方法】に従って、レンズ情報を設定し、撮影してください。

※本製品の仕様上、通常撮影時にカメラ側で設定・表示されるF値は「F1～F5.6」の範囲となります。実際の絞り値は、レンズ側の絞りリングで設定します。

### 【レンズ情報の切替方法】（内蔵データ10種）

ボディ内手ブレ補正機構を適切に動作させ、性能を最大限に発揮するためには、使用するレンズの焦点距離に合わせてレンズデータを設定してください。本設定を行うことで、EXIFデータにレンズ情報を正しく記録できます。あらかじめPCで編集いただくか、使用レンズに近い焦点距離のレンズ情報に設定してから、ご使用ください。

※開封直後に初めてPCと接続する際は、一度カメラに装着し、電源をONにして正常に認識されることをご確認ください。

#### ① 設定モードに入る

1. カメラに本製品（アダプター）とレンズを装着し、電源をONにします。
2. 撮影モードを A（絞り優先）または M（マニュアル）に設定し、フォーカスモードをMFに設定します。
3. カメラの絞り値がF1～5.6の間で表示されている状態で、シャッターボタンを軽く5回押します。  
※シャッターが切れない程度の力で操作してください。
4. カメラ本体の絞り値の表示が「F8～F22」の間に変化すれば、設定モードに移行完了です。  
※絞り値が変化しない場合は、再度①-3をくりかえしてください。

#### ② レンズ情報を切り替える（表のF値で選択）

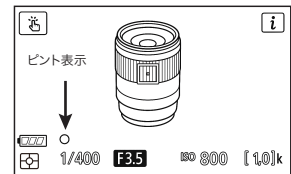
1. カメラのダイヤルを操作し、記録したいレンズ情報に対応するF値を選択します。
2. シャッターボタンを押し込み、撮影します。
3. 電源をOFFにしてから再度ONにすると設定完了です。

F値	レンズ名(焦点距離 / 開放F値)
F8	Leica M 18mm F3.8 (18mm / F3.8)
F9	Leica M 24mm F1.4 (24mm / F1.4)
F10	Leica M 35mm F1.4 (35mm / F1.4)
F11	Leica M 50mm F1.4 (50mm / F1.4)
F13	Leica M 75mm F2.0 (75mm / F2.0)
F14	Leica M 90mm F2.0 (90mm / F2.0)
F16	Leica M 135mm F2.0 (135mm / F2.0)
F18	Leica M 200mm F2.8 (200mm / F2.8)
F20	Leica M 300mm F2.8 (300mm / F2.8)
F22	Leica M 28-70mm F3.5-4.5 (50mm / F4.0)

## 【ピント表示機能(フォーカスイド)に対応】

電子接点のないMFレンズでも、撮影画面のピント表示(●)で合焦を確認できます。

※フォーカスイド機能(ピント合焦表示)の動作精度は、カメラとの相性により異なります。ピント精度が十分でない場合は、拡大表示やフォーカスピーキング機能とあわせてご活用ください。

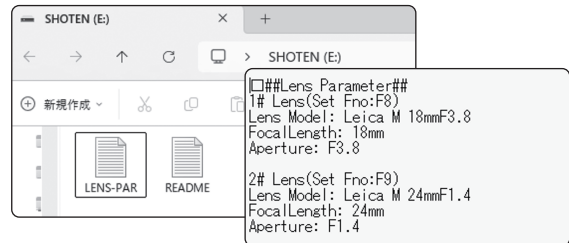


## 【レンズデータのカスタム方法】

本製品に内蔵されているレンズデータ(最大10本)をカスタムすることで、任意のレンズ名/焦点距離/開放F値をEXIF情報に記録できます。

### ① PC接続とファイル確認

1. 付属のUSBケーブルで、本製品(アダプター)をPCに接続します。
2. PC上に「SHOTEN」ドライブが表示されます。
3. ドライブ内の以下ファイルを確認してください。
  - README.TXT(アダプター情報)
  - LENS-PAR.TXT(レンズパラメータ)



### ② 編集手順 (※初回編集時は安全のため、LENS-PAR.TXTをPCへコピーしてバックアップを取ることを推奨します。)

1. LENS-PAR.TXTを開き、内容を編集します。
2. 編集後、上書き保存します。

※入力できる文字は 英数字のみです。

※macOSをご使用の場合、標準のテキスト編集アプリでは正常に保存できないことがあります。

サードパーティ製のテキストエディタ (TXT編集ソフト) を使用して編集・保存してください。

#### ※編集時の注意点(重要)

##### 【開放F値が1.0未満のレンズを登録する場合(例:f/0.95)】

開放F値は、「1.0」以上の値で設定することを推奨します。仕様上、「1.0」未満の値は正しく反映されません。F0.9など、1.0未満の値を登録した場合、EXIFに記録されるレンズ情報の開放F値は、登録した値とは異なる値で記録される場合があります。

50mm f/0.95 を登録する場合	- Lens Model(レンズ名): 50mm f/0.95
	- FocalLength(焦点距離): 50mm
	- Aperture(開放F値): F1.0

##### 【登録値と表示が異なる場合について】

システムの仕様により、登録した開放F値と撮影時のF値が異なる場合があります。

Aperture(開放F値)に F3.8 を登録した場合	撮影時の表示: F3.5
	EXIFに記録されるF値: F3.5

## 【ファームウェア更新について】

操作性向上のため、ファームウェアは随時更新されます。ファームウェアアップデート方法および更新内容については、株式会社焦点工房のサポートページ ([www.stkb.co.jp/support.html](http://www.stkb.co.jp/support.html)) でご確認ください。

### 使用上のご注意 ⚠

- ・ 本アダプターはMF(マニュアルフォーカス)専用です。AF(オートフォーカス)や自動絞り制御には対応していません。
- ・ F値情報が正常に反映されないため、内蔵のレンズ情報編集の際は、開放F値を1.0以上の値で登録してください。
- ・ ご使用の際は、フォーカスモードをMFモードに切り替えてください。
- ・ 沈胴タイプのレンズをご使用の際は、カメラに装着したまま沈胴させないでください。Mマウントレンズの装着につきましては、お客さまによる最終的ご判断をお願いいたします。
- ・ アダプターの取り付け・取り外しは、カメラ本体の電源を「OFF」にしてから行ってください。
- ・ 本製品をカメラに装着している時はカメラの電源がオフであっても常にカメラ本体のバッテリーを消耗する場合があります。撮影時以外は(保管、長時間の持ち運びなど)本製品をカメラ本体から取り外すことをおすすめいたします。
- ・ 装着する機材の個体差・経年変化・損傷による形状の変化等により、装着感(固い、緩い、若干のあそび等)が通常と異なる場合や、装着できない場合があります。
- ・ レンズの個体差に対応するため、わずかにオーバーインフになるよう設計する場合があります。実際のピントの位置を確認しながら撮影してください。
- ・ すべての撮影機能、およびすべての対応機材が使用できることを保証するものではありません。
- ・ 電子接点は汚さないようにご注意ください。目視できない僅かな汚れでも動作不良の原因となります。
- ・ 高温になる場所に置かないでください。極端に温度が高い環境では、機材が故障したり変形するおそれがあります。
- ・ マウントアダプターを水にぬらすと、部品がサビつくなどして故障の原因になりますのでご注意ください。